

人間の経済

第2期 第 **23** 号 (通巻 101 号) 2005年6月6日刊

目次

週刊マーケットレター (05年6月6日週号)
主要マーケット指標
米長期期待成長率の低下による債券相場の上昇
回復の道筋が立たない日本経済
曾我 純

バーターを考える (1)
森野 榮一

週刊マーケットレター（05年6月6日週号）

2005年6月5日

曾我 純 jsg@syd.odn.ne.jp

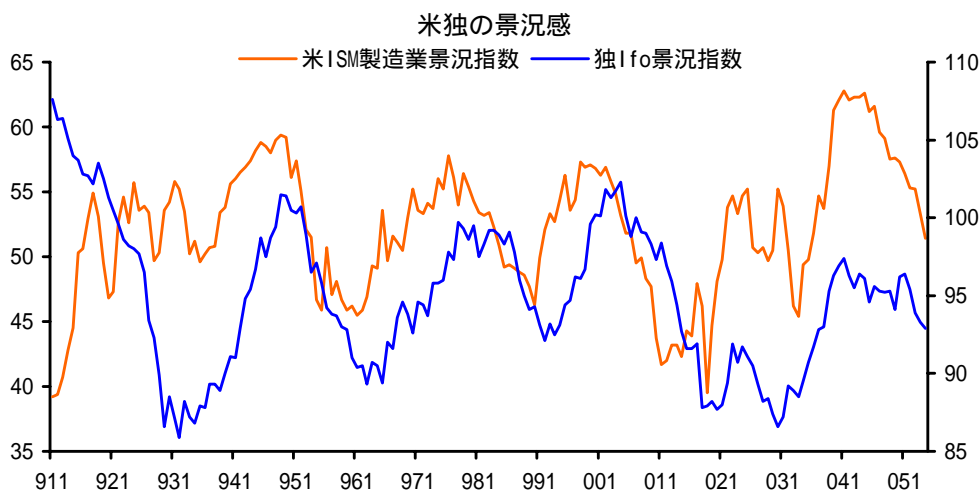
主要マーケット指標

為替レート	6月3日（前週）	1ヵ月前	3ヵ月前
円ドル	107.70(107.95)	105.10	105.25
ドルユーロ	1.2235(1.2585)	1.2870	1.3110
ドルポンド	1.8120(1.8240)	1.8930	1.9075
スイスフランドル	1.2540(1.2315)	1.1965	1.1805
短期金利（3ヵ月）			
日本	0.05375(0.05375)	0.05438	0.05125
米国	3.36000(3.33000)	3.21938	2.95000
ユーロ	2.11613(2.12531)	2.12513	2.13344
スイス	0.75000(0.75000)	0.75833	0.75000
長期金利（10年債）			
日本	1.240(1.250)	1.230	1.505
米国	3.97(4.07)	4.16	4.38
英国	4.26(4.38)	4.50	4.82
ドイツ	3.23(3.32)	3.37	3.75
株 式			
日経平均株価	11300.05(11192.33)	11002.11	11856.46
TOPIX	1147.72(1132.34)	1131.80	1189.52
NY ダウ	10460.97(10542.55)	10256.95	10833.03
S&P500	1196.02(1198.78)	1161.17	1210.47
ナスダック	2071.43(2075.73)	1933.07	2058.40
FTSE100（英）	4999.4(4986.3)	4861.2	5014.8
DAX（独）	4510.39(4444.71)	4245.54	4373.27
商品市況（先物）			
CRB 指数	306.70(300.89)	299.69	307.52
原油（WTI、ドル/バレル）	55.03(51.85)	49.50	53.57
金（ドル/トロイオンス）	423.7(419.8)	426.7	429.9

米長期期待成長率の低下による債券相場の上昇

フランスとオランダが欧州連合憲法の批准を否決したことからユーロが売られた。欧州中央銀行の経済見通しによると、05年のEU実質GDPの伸び率は3月の1.6%から1.4%に下方修正され、EUの景気低迷からの脱出は容易でないこともユーロ離れに拍車を掛けている。ユーロの短期金利もじりじり低下しているが、特に、景気不振のドイツの長期金利は過去3ヵ月で0.5%以上の大幅な下げを記録した。5月のIfo景況感指数は92.9と4ヵ月連続の低下となり、ドイツの景気不振がEU全体に不安な影を投げかけている。

米国の長期金利は5月31日、約3ヵ月ぶりに4.0%を下回り、6月1日には3.88%まで低下した。5月の米雇用統計が市場予想の半分にも満たず、株式相場は反落したが、長期金利は上昇した。原油価格が週末、55ドル台に急騰し、債券市場がインフレ懸念を感じ取ったからであろう。ドルは上昇したが、金をはじめ商品市況は上昇し、CRB先物指数は4月



出所：ISM、Ifo

下旬以来の高い水準となった。

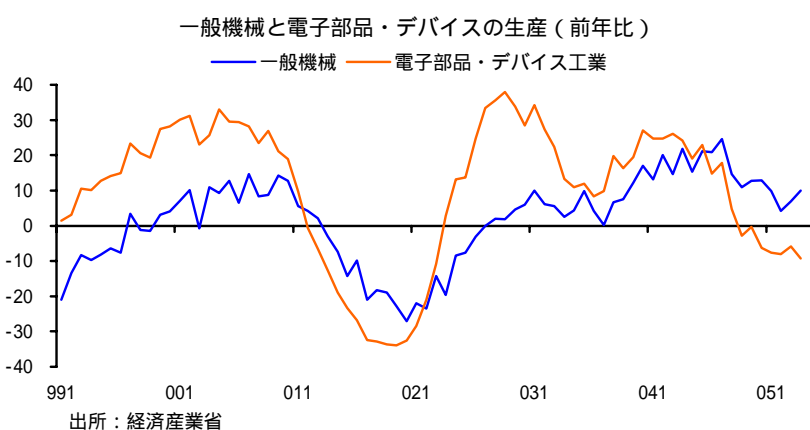
米株式相場は特別な要因もなく上げていたが、ISM景況感指数の低下や雇用統計の予想外の数値により、上昇力は削がれた。5月のISM製造業景況感指数は51.4%と04年1月をピークに落ち込んでおり、非農業部門雇用者数の前年比伸び率も5月、1.5%と3ヵ月連続の低下となるなど、米景気拡大ピッチは鈍ってきている。

米国経済は大幅に減速することはないと思うが、減速過程にあることは間違いなく、景気の減速が、原油高による物価上昇圧力を和らげるであろう。5月のISM製造業価格指数は58.0%、前月比13ポイント減に急低下し、非製造業の価格指数も低下しつつある。商品市況は世界景気に遅行する傾向が読み取れることから、原油価格は自然に下落していくはずだ。景気減速による物価上昇圧力の低下が、米債券相場の魅力を高めているだけでなく、欧州や日本の債券相場を盛り上げているのである。

90年代(10年)の米実質経済成長率は年平均3.27%増と80年代をやや上回り、黄金の60年代以来の高い成長となった。ITバブルの崩壊から01年の伸び率は+0.7%に落ち込んだが、その後、3年連続の回復となり、04年は4.4%増と99年以来の高い伸びを示した。ただ、成長率が高くなったとはいえ、04年までの4年間の年平均成長率は2.51%にすぎず、2010年までの10年の平均成長率は90年代を相当下回ることになる。90年代のITブームによる高成長の反動があらわれ、次の10年の経済成長率は大幅に低下する見通しである。こうした長期期待成長率の低下が、米債券利回りの低下に結びついているのではないだろうか。

回復の道筋が立たない日本経済

4月の鉱工業生産指数は前月比2.2%増と3ヵ月ぶりのプラスとなったが、前年比では+0.6%と昨年10月以来の低い伸びとなった。昨年8月の前年比9.6%増をピークに低下しているが、在庫はマイナスからプラスに転じたものの、4月も前年比+1.1%と幾分増加率は低下しており、在庫によって生産が圧迫される状況ではない。生産が思いのほか底堅いのは、一般機械が前年比10.0%と4ヵ月ぶりの2桁増に回復したことや、



機械の生産が堅調に推移しているからだ。財別では、2月には前年比0.3%まで低下していた資本財(輸送機械除く)が4月、+9.0%まで持ち直してきたことが、生産を支え

ている主な要因である。

電子部品・デバイス工業の生産は3月まで3ヵ月連続の前月比プラスであったが、4月は3.4%下落し、前年比でも-9.3%と今回の下落過程でマイナス幅は最大になった。在庫は昨年8月の前年比37.0%増から4月には-1.1%に減少したが、在庫率はピークよりは低下したものの46.1%増と依然高水準にあり、生産の拡大を阻害している。

4月の勤労者世帯の消費支出は前年比3.0%減少し、5月の中小企業の景況感や売上D.I.(増加 減少)はいずれも悪化した。4月の現金給与総額は2ヵ月ぶりにプラスになったが、前年比+0.6%にすぎず、家計の購買意欲を刺激するにはいたらないであろう。つまり、日本の内需が目立って良くなる見通しを描くことはできないのである。しかも、世界景気が減速過程にあることから、外需に頼ることもできない状況にあり、在庫増により高い成長になった日本経済は先行き思いもかけない不振に陥るかもしれない。

パーターを考える(1)

森野 榮一

モノへの関心

最近、狭い我が家がいつそう狭くなりました。各部屋にゴミ箱が六つも置かれるようになったからです。私の住む地域でゴミの収集法が変わったのです。

再生可能な紙は紙、プラスチックはプラスチックなどなど、分けなくちゃならなんのです。それも、ま～、細かく分けるのです。

資源リサイクルは大事なことです。そこで、ひとつひとつ使って捨てるさいに、いま、どれをどの箱に捨てるか練習中。いざしてみると、これが難しい。

確かに、商品に紙とかプラとか書いてあるものは増えてきていて、捨てる段になって、老眼鏡を覗き込んで、あ～あった、あった、プラだからプラだな、と。

しかし・・・

例えばタバコ。外側の透明の包装材はプラ。そ～か～、これもプラなんだ～。で中の銀紙はどうするんだ。銀紙はやはり紙だろうけど、銀だからな～。えっ、なに、それは紙でいいだと。ふ～ん、これも紙か。紙にわかるにゃちょっと抵抗あるなあ。で、箱はそうか、紙か・・・う～ん面倒。いっそのこと買うの止めようー(\ (^o^)/、循環型社会で禁煙成功!)。

スーパーで買ってきたモノ。包装材はみるからにプラ。それに紙が貼ってあり値段などが付いている。

私：これどうするんだ～

子供：プラでしょうが。

私：この紙の部分だよ。これじゃあ分けられないだろー

子供：剥がせばいいじゃない

私：剥がせないよ

子供：じゃあ、貸してごらん、はさみでここを切り抜けばいい。残りは、ほらプラだよ。こっちは一般のゴミ。

私：特売の紅い丸いシールも貼ってあるぞ。それも切り抜くか。

私：あ～、面倒だ。もうイチゴのパックは買うのやめよー

新聞のチラシを見ている家人が

「これよさそーね」

そうしたらすかさず

「だめだめ、そんなの買ったら、捨てるとき、ど～するの？」

最近、なにかモノを購入するときは、捨てる時のことまで考えねばならない時代になりました。びんぼーでモノが買えないわけじゃないぞ～。ピアノなんかこどもひとり一台買い与えたいんですよ～。でも、リサイクルを考えるとね～＼(^o^)/、といってミエをはれる時代になったのか・・・

でも、廃棄のことを考えずに無闇に粗大ゴミになってしまった、おじさんはど～する？
要するにごく当たり前のことですが、

買うというときは、

先様に代価を支払うのはもとより

自分のほうに、モノやサービスが来る

ことを指します。

そうして

これらのモノはその在り方が時間に依存的であるという性格をもっています。
(今日のリンゴは明日のリンゴではありません)

自分が掌中にしたモノやサービスは先様の手から、契約で決まった通りに、私の手に入ります。

そして、いったん入手したら、それらを

すぐに消費してしまおうが、

耐久財のように長期間に渡って消費しつつ保有して
いこうが

生産のために役立たせようが

途中で売却するか、廃棄するかするまで、その保有にともなう管理・維持等々のコストを負担しながら持ち続けることを意味します。そうして自分の手を離れても、廃棄と処分にとともなうコストを誰かが負担することを意味してもいます。

「豊かな」消費社会は私たちにモノにあふれた、そして最終的には廃棄物にあふれた生活を提供しました。これは贈与を受けるか、購入するか（代金や代物による購入）、盗んでくるか以外には入手しえないわけですが（魔法使いは魔法で出すということがあるんでしょうが）、主に購買を通して入手しています。

地域通貨の取り組みは、こうした実物の流れに光を当て返してくれるはずのものでしたが、必ずしも明瞭な意識をもたらしてはいないようにみえます。それは、ゲゼルがロビンソン物語で明らかにし、スラッフアからケインズにいたるプロセスでより明瞭にされていた、貨幣経済やリアルエコノミーにおける利子現象の解明がはまだ周知されていないからかもしれません。

バーターのお考え方

ところで、地域通貨はバーターっていいです。なにか新しい知見を提起しているのでしょうか。

あらためて、バーターってなんでしょう。

バーターって物々交換でしょ？

うん。

でも物々交換って何？

ふつうの人のイメージは、たとえば、AさんとBさんがいる。

Aさんは余っているもの（余剰）を持っている。

Bさんも同様

AさんもBさんも、余剰は別物である。

ちょうどまい具合にAはBの余剰物をBはA余剰物を欲しがっている。

このとき、物々交換がなりたつ。

つまり、AとBは「売ること」と「買うこと」を同時にしている。

AはAの余剰物をBに売り、BはBの余剰物をAに売っている。

これは逆にいえば、AはBの余剰物をAの余剰物で買い、BはAの余剰物をBの余剰物で買っていることでもある。

つまり、売りと買いは同時に成立している。

でも、それじゃあ、取引成立はとても難しいですよ。

そうですね。

こういうのも、バーターなんでしょ？

たとえば、BはAの余剰物を欲しがっている。

しかしBはAが欲しがっているものを現時点ではもっていない。

そこで、Bは君が欲しいものは一年後に手当がつくから引き渡せる、だから現時点で君の余剰物を売ってくれないかともちかける。

Aは、その条件で取引の約束をなし、BはAの余剰物をいま入手する。

Aは1年後にBの手当した所望品を入手する。

ここで

決済はモノで行われている。

この条件を満たしていれば、やはりバーターかな。

でも、考えるべきことがいくつかあるね。

そうですね。

君ならいうだろうね。

そうさ。Aはなんでそんな条件を受け入れたんだい？カネを使う世界なら、Bは大いに得をする。だって、Bは一年後に代金を支払えばいいわけじゃないか。本当ならいま払わなきゃならないはずの代金を一年間、べつのことに使えるはずだ、それで金儲けができる。そうでない場合でも、もしいま手元にカネがなくてどこかから借りてきたら利息（資本コスト）がかかるだろう。年利5%としたら、代金のその割合分だけ得しているじゃないか。それにAはただいま、その代金支払いがあれば、得べかりはずの利益を失っている。

そうだね。

でも、君は取引が貨幣で行われる例を話している。問題はバーターなんですよ。代金はモノで支払われる。

その場合でも似た事情があるじゃない。

いまBは支払うべき代物を持っていない。1年後の支払いということは、Bにとって生産期間かもしれない。その期間にかかれは生産活動をなし、製品化された1年後に代物として製品による清算を行うと。BがAから入手したモノはその生産に使われる（投資される）ことだろう。1年間Bは無償で投資できている。Bは得しているわけさ。ここで、その無償分の投資が製品に占める寄与部分はBがAとそういう取引をなしたことによる利得といわざるを得ない。

う～ん、Aはお人好しか～。

俺がAだったらそんな取引はしないな。

いや、Aにも事情があるだろう。

つねにAはBの製品を必要としており、1年後でもいいからその製品を手当しておきたい、と考えているかもしれない。

自分の産品をただいま引き渡すことは、1年後に同時決済をなすことに比べれば、産品の1年間の保管コストを考えればその分、得であると考えているかもしれない。

それでそういう約定をしたんじゃない？

この両者の事情を考えに入れて、そう、ぼくらはカネで決済しない事例を検討しようとしているわけだ。いくつもの論点がでてくるね。それを明確にしようじゃないか。

ここで、君も同意してくれると思うけど、バーターを考える場合、

- 貨幣が存在している世界でのバーターと
- 貨幣が存在していない世界でのバーター

を区別して話をする必要があるね。

だって君はソンとか得とかいってたけど、それはどうやって測っているんだい。たとえば君は、そしてそれにつられてぼくもだけど、財の引渡に事後する代物決済で、ソンや得を計量していた。

- なにによってそれを測ったんだろう。

そう、そうだよ。われわれは、バーターといいながら、貨幣を密輸入していた！

編集・発行 **ゲゼル研究会**

221-0021 横浜市神奈川区子安通3-321森野榮一気付

Gesell Research Society Japan <http://grsj.org/> info@grsj.org

Gesell Research Society Japan all rights reserved 許可無く複製・再配布を禁ず